

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2020年(令和2年)7月5日号 No.1830

目次

■ 憲法修正に関する全ロシア投票の結果	上野 俊彦 1
■ 統計速報	5
2020年1～5月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／5	
2020年1～5月の日ロ貿易／6	
■ 新型コロナウイルス感染拡大に関するロシアの対応	ROTOBOモスクワ事務所 9
■ トピックス	18
ロシアの失業率、過去7年間で最高／18	
EU、対ロ制裁延長／18	
アルメニアに感染症対策支援／18	
ロシア・NIS諸国における新型コロナウイルス関連のニュース／18	

憲法修正に関する全ロシア投票の結果 —暫定的コメント—

元上智大学外国語学部ロシア語学科教授

上野 俊彦

はじめに

2020年7月1日、ロシアで憲法修正に関する全ロシア投票が行われた。新型コロナウイルスの影響で、当初、2020年4月22日に投票日が設定されていたが、延期となっていた。今回の憲法修正により、プーチン大統領が2024年以降も任期続投が可能となったり、日ロの領土交渉に影響が生じる可能性があると考えられていたりしているため、投票については日本でも注目を集めてきた。そこで、今回の投票結果について、元上智大学外国語学部ロシア語学科教授の上野俊彦先生に暫定的なコメントをお寄せいただいたので、今号ではそれをご紹介します。なお、上野先生には『ロシアNIS調査月報』2020年9-10月号(8月20日発行)で、今回の投票結果につきより掘り下げて分析していただく予定である。(編集部)

憲法修正の手続きおよび用語について

本稿では、ロシア憲法の「改正」ではなく「修正」と言っている。それは、ロシア憲法が、その基本原則を定める第1、2、9章の条項の変更を憲法「改正」とし、残りの第3～8章の条項の変更を憲法「修正」として区別しており、今回はロシア憲法第3～8章の条項の変更なので、ロシア憲法に従えば、憲法「修正」となるからだ。

また本稿では、「国民投票」ではなく「全ロシア投票」と言っている。これは、今回の投票が、憲法